

交渉速報

J R 貨物労組本部業務部

2012年11月2日

No.4

組合：組合員の苦勞に対して正当な評価で報いるべき！
会社：手当は業績給の側面が大きく経営状況を見て判断する

～2012年度 年末手当第3回交渉報告～

中央本部は、本日14時30分より第3回年末手当交渉を行ない、要求の根拠を明らかにしました。

【要求の根拠】

- ①昨年よりも輸送量・収入ともに拡大しており、支払い能力は十分にある。貨物会社への帰属意識や社会的使命を持った鉄道貨物輸送に対する誇りを持って仕事するための士気を高める必要がある。
- ②13年連続ペアゼロの中で可処分所得も減少するなか、公共料金や健康保険の掛け金の値上げが行なわれるほか、消費税増税もある。組合員の生活はますます苦しいものになっており、将来への不安の解消を図るべきである。
- ③度重なる自然災害や輸送障害にも、組合員は定時運行確保に努めてきた。25年間苦しい経営状況を支えてきた組合員に見える形で報いるべきである。

以上3点を示し、この間の苦勞と切実な想いに対し、誠意ある回答を示すよう突きつけました。

【会社の考え方】

- ①輸送量・収入は対前年比で増加しているのは確かだが、対計画では下回っている状況である。
- ②昨年よりも改善されたとはいえ中間決算は赤字の見通しである。引き続き黒字の達成に向けて努力していく。
- ③自然災害や輸送障害の中、社員の努力は認識している。社員のモチベーション向上は考えていきたいが経営状況による。
- ④年末手当は生活給であるという主張はわかるが、業績給の側面が大きい。

これに対して中央本部は、①会社の考え方は、収入拡大よりコスト削減に軸足が向いている。コスト削減は最後の手段であり、経営責任を社員に押し付けてガマンしろとはならない。②一部経営陣の経営状況および収入拡大に対する危機感・緊張感が全く見られないのは問題である。③黒字確保に向け経営陣がどのように取り組むのか具体策を示すこと。また輸送障害が収入未達の原因であるならば、経営陣が汗を流し輸送障害の解消に向けて現場に見える形で対策を講じること。を突き付け、交渉を終了しました。

組合員のみなさん！会社はかけっぶりちにある経営状況にありながら危機感が全く見られず、収入拡大よりコスト削減で乗り切ろうとしていることが、今交渉で改めて明らかになりました。厳しいからガマンしろという言い訳はもはや理由にはなりません。私達は度重なる輸送障害において、定時運行確保のために昼夜を問わず努力してきました。会社はその努力に報いる義務があります。

2. 6ヶ月の要求は、組合員一人ひとりが貨物会社をメシの食える会社にしようと努力したことに対する当然の評価です。年末手当獲得の為に集会や要請行動等、職場からの取り組みを要請します。中央本部はその最先頭で闘っていきます。

以上

次回、第4回交渉は、11月8日（木）です。